

2月22日
まちを守り、地図に残るお仕事
釧路川改修工事現場を見学 | 弟子屈中



東星渡部建設株式会社（渡部哲夫代表取締役）の弟子屈下流地区河道整備工事現場見学会（釧路川改修工事）に2月22日、弟子屈中学校（佐藤敬喜校長）の2年生43人が参加しました。

建設業と建設現場で働く人について間近で見てもらうことにより、建設業の仕事に関心を持ってもらうことを目的に開催されたもの。生徒たちはふだんは関係者しか立ち入ることのできない現場で重機や作業員の仕事を間近で見学しました。見学後半には防災活動体験として土のう作りに挑戦。土を詰めた土のう袋の重さに驚いた様子でした。

カメラスケッチ



このページは皆さんからの情報で作られています。どのような情報でもすぐ反映させていただきます。お気軽にご連絡ください。



まちづくり政策課広報統計係 ☎482-2913(課直通)

星空を通しふるさとの環境を考える

星空観察会を開催



観察した結果をかかさつシートに記入

観察した結果をかかさつシートに記入
観察後には、参加者それぞれが「ほしぞらかんさつシート」に観察結果をまとめました。観察結果は、ウェブサイトにアップロード・サイトに投稿され、世界中の人と情報交換ができるようになります。

この観察会は、春にも開催される予定です。



満天の星を観察(解説する中島先生(右))

町主催による星空観察会が2月26日、屈斜路研修センターで開催されました。

この観察会は、本年8月に行われる「第31回 星空の街・あおぞらの街 全国大会」(弟子屈町)のプレイベントとして行われたもので、和琴小学校の児童や先生、地域の方など、20人ほどが参加しました。

観察会では、講師として、りくべつ宇宙地球科学館(銀河の森天文台)で星の案内や天体写真の撮影を行っている中島克仁さんを招き、室内で星空観察の仕方などを学び、屈斜路研修センターの駐車場で観察を行いました。観察した日は、天候にも恵まれ、見事な星空を観察することができました。

観察した参加者からは、あらためて見た星空に「すごいきれい」「たくさん星が見られた」などの声が聞かれました。

観察後には、参加者それぞれが「ほしぞらかんさつシート」に観察結果をまとめました。観察結果は、ウェブサイトにアップロード・サイトに投稿され、世界中の人と情報交換ができるようになります。

この観察会は、春にも開催される予定です。

2月27日
新生活への不安を解消
社会人になるための講話を開催 | 弟子屈高



卒業生から卒業後の具体的な体験談を聞き、4月からの新生活について考える「社会人になるための講話」が2月26日、弟子屈高校(宮崎円校長)で開催され、同校の3年生37人が参加しました。

講師には現在社会人・大学生として生活する同校の2人の卒業生(平成29年度卒)が招かれ、社会人として、大学生としてそれぞれの視点から講話を実施。生徒のみなさんはメモをとりながら真剣に耳を傾け、質疑応答の時間には「社会人が一番大変だったことは」「大学のレポート課題は大変か」などたくさんの質問が挙がりました。

2月22日
交通安全功労者をたたえて
館昭子さんが交通栄誉章「緑十字銀章」を受賞



長年にわたり交通安全活動に尽力した町女性ドライバークラブ顧問の館昭子さんが、平成30年度交通栄誉章「緑十字銀章」を受賞し、その伝達式が2月22日、弟子屈警察署で行われました。

同章は交通安全功労者をたたえるもので、当町でははじめての受賞者となった館さんは、免許取得して以来47年間無事故無違反を守る優良ドライバー。現在顧問を務める同クラブでは、平成18年から23年まで会長を務めるなど、安全運転の推進に尽くしてきました。館さんは「受賞は自分だけではなく、会員たちと積み重ねた成果」と笑顔で話していました。

3月14日
大学で「学ぶ」ことってどんなこと？
和歌山大学が出張模擬授業 | 弟子屈高



和歌山大学の出口竜也教授、竹林浩志准教授(観光学部)、此松昌彦教授(教育学部)の3人が3月14日、弟子屈高校(宮崎円校長)を訪れ、全校生徒を対象に模擬授業を行いました。

両校が連携し毎年行われているもの。今回は「大学で学ぶということ」と題して、大学での研究についてや自分の将来像から考える進路選択についての授業が行われました。

此松教授は今回が初参加。自身が専門とする地質学からみる地域の違いなどについて、スライドを使って分かりやすい講義を行い、生徒の皆さんは真剣に聴講しました。

3月6日
全道中学生 税をテーマとしたポスター
田本君が釧路教育局長賞を受賞 | 川湯中



「第33回税をテーマとしたポスター」で、全道から寄せられた全3,328点の作品の中から、川湯中学校(佐藤岳彦校長)3年 田本亜樹斗君の作品が北海道教育庁釧路教育局長賞を受賞しました。

同募集は北海道が毎年行っているものですが、何十点も応募して1点も入賞しない学校も多いとのこと。町内からは40点が応募されており、川湯中学校では美術の時間に作成した1点を応募。田本君は「まさか賞をもらえるなんて思っていなかったので、びっくりしています」とうれしそうな様子でした。

作品は釧路総合振興局課税課のホームページに掲載されています。

町の話題



町の話題

子育ての新たな環境へ

摩周丘幼稚園閉園式
おひさま保育園閉園式



幼保連携型認定こども園ましゅうとなる園舎(旧おひさま保育園)



園児たちによる園歌斉唱 閉園にあたりあいさつする鈴木園長

本年4月より幼保連携型認定こども園ましゅうが開園することに伴い、学校法人弟子屈学園摩周丘幼稚園(鈴木幸榮園長)と、町立おひさま保育園(渡邊重子園長)で閉園式が行われました。

摩周丘幼稚園は、平成8年に開園。これまで、734人の卒園児を送り出してきました。3月24日には、関係者などで閉園式が行われ、園舎は、一般にも公開されました。

閉園にあたり鈴木園長は「子どもたちが園での生活や行事を通して、大きく成長していく姿が何よりもうれしく、子どもたちから学ぶことも多かった。保護者、関係者の皆さんに感謝したい」と話していました。一般公開には、同幼稚園を卒園した方も多く訪れ、当時をなつかしんでいました。

3月28日には、おひさま保育園でも閉園式が行われました。平成9年の開園以来、490人の卒園児を送り出し、園舎は4月より幼保連携型認定こども園ましゅうとして再出発します。閉園にあたり徳永町長は「これまで保育園の運営などに保護者をはじめ多くの関係者にご協力いただいた。あらためて感謝したい。幼保連携型認定こども園ましゅうの運営には、全力で取り組んでいきたい」と話していました。